

1章

農地と農村の現状

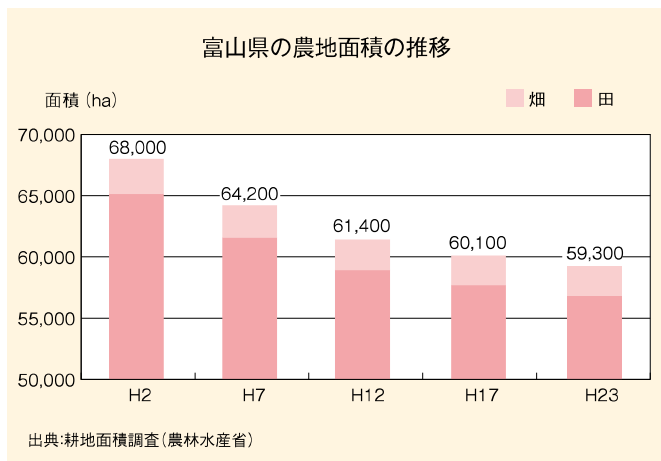


〈小矢部市道坪野〉

I 農地の現状

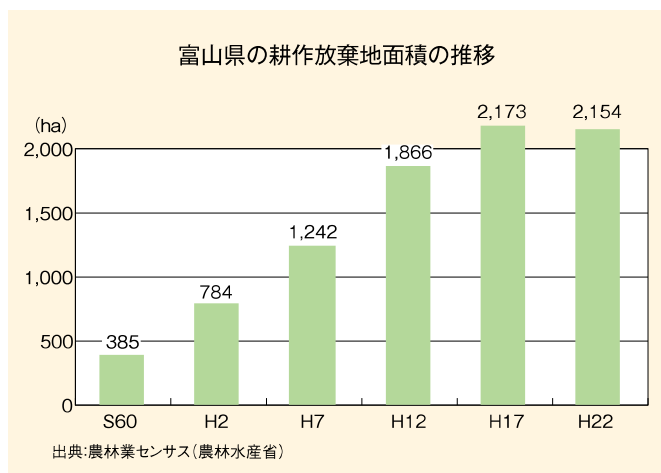
■ 農地面積の推移

農地面積は、住宅用地、工業用地等への転用が進み、平成2年の68,000haから平成23年には59,300haに減っており、20年間の減少面積は8,700haとなっています。



■ 耕作放棄地面積の推移

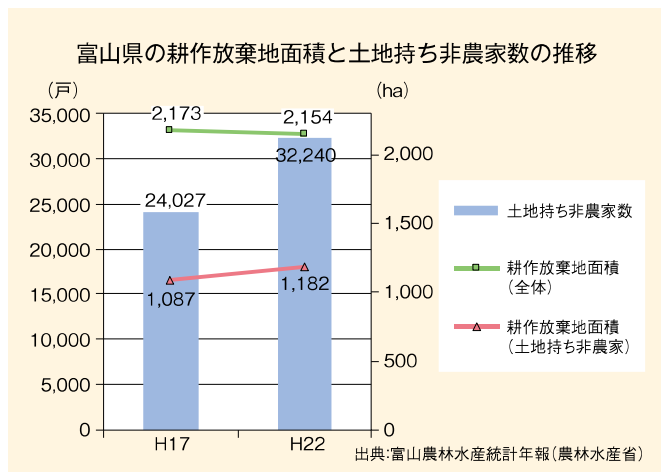
これまで耕作放棄地は増加していましたが、平成22年には減少に転じました。



■ 耕作放棄地面積と土地持ち非農家数の推移

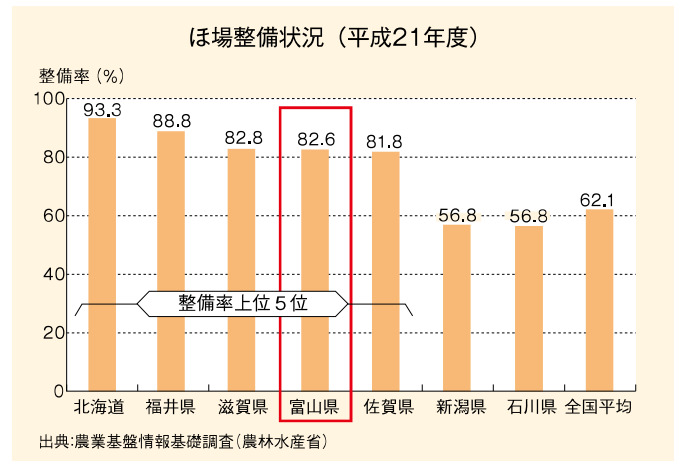
県内の耕作放棄地は平成17年から平成22年にかけて19ha減少しています。

一方で、土地持ち非農家の増加に伴い、土地持ち非農家の耕作放棄地面積は95ha増加しました。



■ ほ場の整備状況

本県では全国に先駆けて、ほ場整備が行われ、ほ場整備率は北海道、福井県、滋賀県に次いで全国第4位となっています。



■ 農業水利施設の資産価値

本県の農業水利資産のストック（これまで整備された水利施設）は、平成24年度の評価額で約9千7百億円になります。

富山県の農業水利施設の資産価値

施設区分	全体施設規模		受益面積 (ha)	再建設価格 (百万円)
	箇所数	規模		
ダム	9	4,398万㎡	21,940	130,162
頭首工	42	224.2㎡/s	38,744	58,411
ため池	2,358	1,499万㎡	9,692	85,087
揚水機場	31	12.97㎡/s	1,932	1,943
排水機場	13	127.7㎡/s	5,109	17,127
樋門	8	—	—	710
水路	—	6,106km	—	676,378
計	2,461	—	77,417	969,819

出典:平成25年3月現在、農村整備課調べ

■ 農道の整備状況

農道は、これまで1,500km以上が整備され、農業生産の振興、地域住民の生活道路や学童の通学路としても利用されています。

農道整備の実績

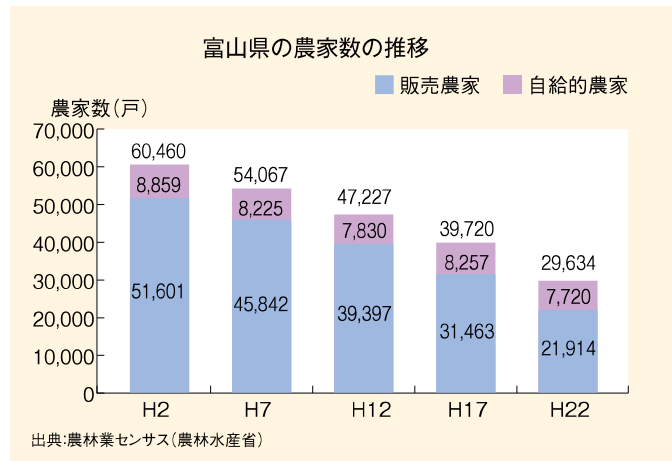
事業区分	事業実施年度					施設延長 (km)
	S49まで	S50~S59	S60~H6	H7~H18	H19~H23	
広域農道	7.4	61.6	50.4	20.1	2.2	141.7
農免農道	16.0	81.5	42.3	24.3	7.5	171.6
一般農道	7.0	30.5	15.3	12.9	1.2	66.9
団体営農道	174.9	418.7	442.7	136.9	8.7	1,181.9
ふるさと農道	0.0	0.0	0.0	11.4	0.0	11.4
計	205.3	592.3	550.7	205.6	19.6	1,573.5

出典:平成25年3月現在、農村整備課調べ

II 農村の現状

■ 農家数の動向

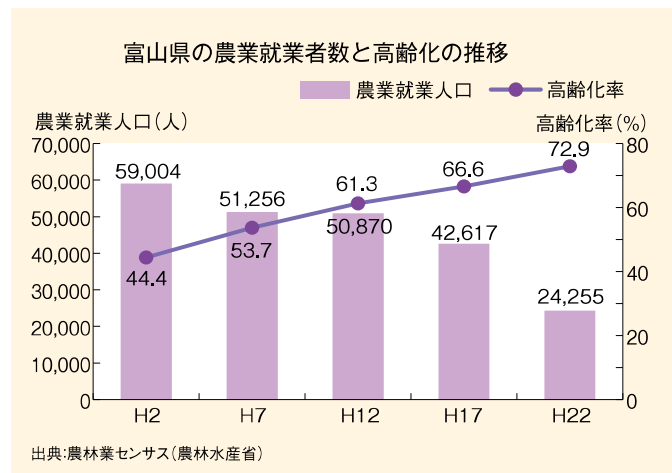
農家数は平成22年には29,634戸となり、平成2年の半分以下になっています。



■ 農業就業者の高齢化の状況

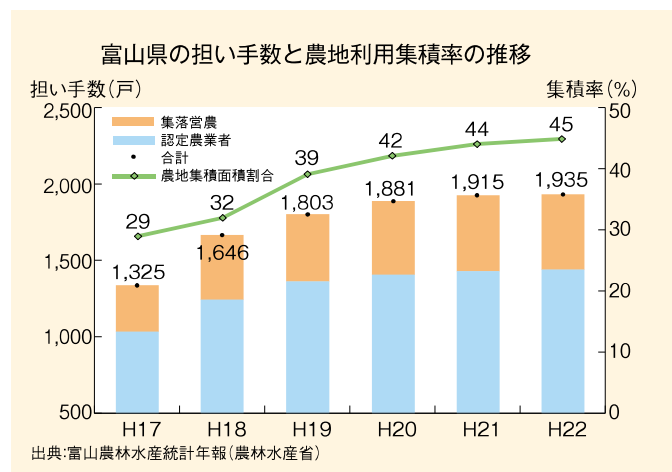
農業就業者は平成22年には24,255人となり、平成2年の59,004人の約4割となっています。

農業就業者数のうち65歳以上が全体に占める割合は72.9%となり、年々増加しています。



■ 担い手数と農地利用集積率の推移

認定農業者や本県が全国に先駆けて取り組んだ集落営農組織など、担い手は着実に増えていますが、その増加率は鈍化しています。

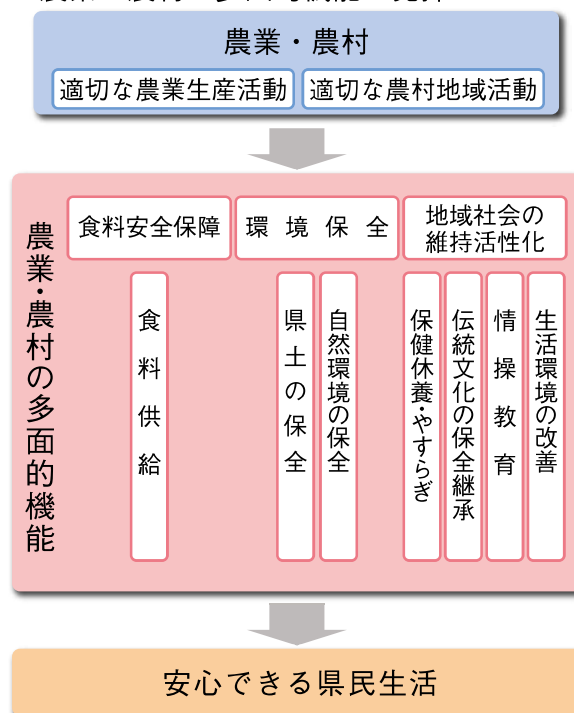


Ⅲ 農業・農村が持つ多面的機能

農業・農村は食料を安定的に供給する基本的な役割を果たすとともに、農業生産活動を通じて、県土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等の多面的機能を有しています。

富山県の農業・農村が持つ多面的機能について金額換算（試算）したところ、その評価額は総額で年間918億円となり、県民（人口約109万人として）一人当たり、平均で年間約8.4万円に相当する恩恵を受けているという結果になっています。

農業・農村の多面的機能の発揮



多面的機能の評価額（試算）

（単位：億円／年間）

区分	機能名	評価額	役割
まもる	県土の保全	洪水防止機能	244億円 ほ場整備で水田のあぜが整備されると、雨水を溜める機能が高まり洪水を防ぐ 排水が改良されて公共施設の浸水被害を防ぐ
		土砂浸食崩壊防止機能	18億円 (60億円) 農地が耕作され続けると土壌の浸水を抑えられる 山地の水路が維持されることにより山地崩壊を防ぐ
ささえる	生活環境の改善	水質浄化機能	9億円 (5億円) 集落排水により害虫の発生を防ぐとともに、農業用水が流れることにより都市部の水路を希釈浄化する 集落排水事業により農業用排水の汚濁を防ぐ
		地域用水機能	13億円 農業用水は火災時の消火用水や冬期間の消流雪用水に利用されている
		産業誘発・生活道路等機能	230億円 農道が整備されると地域住民も便利になり、産業が誘発されて地域が活性化する
はぐくむ	自然環境の保全	地下水かん養機能	149億円 水田の水は地下に浸透して地下水になるとともに、河川の流れを安定させる
		クリーンエネルギー機能	64億円 農業用水による水力発電は、化石燃料を使わないエネルギーを提供し、CO ₂ 削減に有効
		気候緩和機能	2億円 稲が育つ水田は夏の気温を抑え、冷房効果がある
		生態系保全機能	48億円 農業用排水の水路やため池は、水生動植物の生態系を支える
いやす	保健休養・遊び	リフレッシュ・癒し機能	48億円 水と緑豊かなため池やダムは心のやすらぎ、自然とのふれあいの場を提供
	伝統文化の保全・継承	伝統文化び保全・継承機能	48億円 集落の伝統文化を受け継ぐ基盤となる (3億円) 貴重な埋蔵文化財が保全され、その発見・発掘が歴史の解明に役立つ
		情操教育	自然学習機能
合計		918億円	

※評価額の（ ）は参考評価として合計に含めていない。